

農業農村整備におけるデータ利活用を促進する 農業農村デジタルプラットフォームの構築

研究のポイント

- 情報化施工技術で取得されたデータや農業インフラの諸元及び維持管理データ等を関係者間で共有できるプラットフォーム(名称:NNDP)を構築しました。
- 農業農村整備事業で利用可能な様々なアプリケーションソフトやデータフォーマットを一元的に完備することで、データ利活用の促進を実現します。

研究の背景

- 農業農村整備事業において、情報化施工技術を普及させるには、得られたデータを計画、設計、施工、維持管理や営農といったプロセス全体で活用することが重要です。
- 農業水利施設等の老朽化も喫緊の課題となっており、限られた人員で管理するには、データを活用した効率的な管理手法を取り入れることが不可欠です。

プラットフォームの特徴

- NNDPは、農業農村整備事業全般において活用可能な**多数のアプリや解析システム**を用意しています。
- その他にも、位置情報をもつデータの表示やアプリによる出力結果をマップ上に表示する**マップサイト**や優良な事例を集めた**マップ集**、システム間のデータ利用を円滑にするための**データフォーマット集**などで構成されています。

期待される活用例

- **国営緊急農地再編整備事業A地区**: 情報化施工技術による暗渠管の埋設位置情報や田面標高、工事の諸元データ、ほ場の排水性評価などを「**農地基盤カルテ**」によって一筆ごとにデータを出力し、農家に共有することで、整備後の営農計画や土づくり、農地の維持管理、暗渠機能の長寿命化などに活用しています。
- **国営かんがい排水事業B地区管内の土地改良区**: 整備時の設計図面、諸元データ、点検履歴、劣化状況などを一元管理することで、点検・補修の優先順位づけや長期的なコスト削減、トラブルへの迅速な対応などに活用しています。



アプリ一覧



農地基盤カルテ

